

令和元年度 【 学園研究費助成金＜ B ＞ 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ イハラ ヒサヨ
氏 名 石原 久代

研究期間 令和元年度

研究課題名 アパレル分野における色彩のトーンの調和の検討

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	石原 久代	生活科学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

アパレル分野において服装のコーディネートは非常に重要であり、色彩の調和が審美性に大きく影響する。昨年度の研究において、これまでの色彩調和論の色相について検証を行ったところ、理論に用いられている色相環は等間隔性が保たれておらず、汎用的な理論ではないことが明確になった。そこで色相角を均等にした色票試料を作成し、2色配色として色相の調和について報告した。

本実験では、高彩度域のビビットトーンだけでなく高明度域のライトトーンについても取り上げ、その配色をアパレルの異なるアイテムを用いて再現し、調和についての視覚評価実験を行い、組み合わせるアイテムの違いによる影響を検討した。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

実験色は L^* 、 a^* 、 b^* 値から色相角 $d h$ を等間隔に取った高彩度域のビビットトーン 20 色、高明度域のライトトーン 20 色の計 40 色とした。試料はファッションコーディネートソフト i-Dfit ((株)テクノア) にて、襟なしシャツとミニスカートに 40 種の実験色を組み合わせ、3D の着装画像を作成した。さらに、アイテムの違いにより調和度に差が出ることも考えられるため、同じく i-Dfit にて、シャツブラウスとパンツに 40 色の実験色を配して着装画像を作成した。実験は、着装画像 800 種を N6 背景に提示し、関東、東海、関西にある 6 大学に在籍する女子大生 200 名を被験者として「非常に調和している」～「全く調和していない」の 6 段階で回答を求め、数値化するとともに、調和要因を検討した。

3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

調和領域は色票の実験と同様に同一色相が最も調和し、色相が離れるほど評価は下がったが、全体的に色票と比べ、アパレルアイテムの T シャツとミニスカートに配色した場合の方が評価は低かった。また、上下の配色を逆転させた場合、高明度より高彩度の方が評価の差が大きく、色相差は 2～4 (dh36～72 度) で特に差がみられた。高彩度のビビットトーンではトップス、ボトムスともに青や青緑の評価が高いのに対し、高明度のライトトーンではトップス、ボトムスともに赤や赤紫の評価が高く、色票での評価と異なっていた。

次に、アイテムをシャツブラウスとパンツにした場合、調和領域は T シャツとミニスカートの配色と同様に同一色相が最も調和し、色相が離れるほど評価は下がった。また、高彩度、高明度ともにトップス色として赤や黄赤、ボトムス色として青系を配した場合の評価が高かった。最も評価が高い配色はビビットトーンではトップスが 5R、ボトムスが 10B の時であり、逆に最も評価が低かったのは トップスが 10P、ボトムスが 5R の時であった。一方、ライトトーンにおいてはトップスが 5R、ボトムスが 10B の時が最も高く、逆に最も評価が低かったのは トップスが 5P、ボトムスが 5GY の時であり、高評価の配色は両トーンとも同じ色相の組み合わせであった。ビビットトーンにおいてはトップスが 5R～10GY の時が 1 % および 5 % 水準で有意に高く、ボトムスにおいては 10BG～5P の時が有意に高い評価となっている。一方でライトトーンにおいては、トップスが 5R、5YR、10YR、10Y の時が 1 % および 5 % 水準で有意に高く、ボトムスは 10BG、10PB の時が有意に高い評価となっていた。

さらに、スカートスタイルの評価と比較すると、上下のアイテムの色相差は d h 0～54 度ではスカートスタイルが高く、d h 108 度以上ではパンツスタイルの評価が高く、アイテムによって調和領域が異なることが判明した。

4. キーワード (本研究のキーワードを 1 項目以上 8 項目以内で記載)

①色彩調和	②配色	③色相角	④アパレル
⑤トーン	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

【既に公開した研究成果】

石原久代他 5 名「アパレル分野における色彩調和の検討 (2) - 色票による色相の調和 -」(一社) 日本家政学会第 71 回全国大会、2019. 5. 25 (四国大学)

鷺津かの子、石原久代他 4 名「アパレル分野における色彩調和の検討 (3) - トップスとボトムスのカラーコーディネート -」日本家政学会第 71 回全国大会、2019. 5. 25 (四国大学)

【公開予定研究成果】

石原久代他 5 名「アパレル分野における色彩調和の検討 (4) - アイテムによる色彩調和の差異 -」(一社) 日本家政学会第 72 回全国大会、2020. 5. 30・31 (高崎健康福祉大学)

なお、学会発表後、日本家政学会誌に投稿予定である。